

Ⅲ 循環型社会の形成

1 清掃事業の概要

(1) 循環型社会の形成に向けた取組

ごみの問題は、中間処理施設の処理能力の限界や最終処分場の残余量の問題であるばかりでなく、今や環境問題として社会的に深刻であり、重要な行政課題となっています。また、資源の保護や環境保全の面からも重要な課題です。少しでもごみを減らすためには、どうしたらよいか、どのような暮らし方が環境への負荷を少なくするのか、市民・事業者・行政が連携し懸命になって取り組んでいかなければなりません。

従来的大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会構造は、私たちに多くの恩恵をもたらしましたが、一方で生産、流通、消費、そして廃棄物処理の各過程において多くの資源・エネルギーを消費し、多大な環境負荷をもたらしています。

小平市ではこれまで、ごみの適切な処理とリサイクル推進を主要な課題として取組を進め、市民と事業者の協力の下、資源物の分別収集を全市で実施し、リサイクル率を高めてきました。その結果、ごみの処理量は減り、その分多くの物を資源として再利用することができるようになりました。

しかし、ここ数年ごみと資源物の総量はほぼ横ばいの状態が続いています。

小平市は、平成 31 (2019) 年 4 月 1 日から実施している家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集、資源化の検討、中間処理施設の更新など、さまざまな課題について取り組んでいます。

これらの課題等にさらに取り組むために、市では、廃棄物の減量と処理に係る事業の根幹となるものとして、平成 25 (2013) 年度に「小平市一般廃棄物処理基本計画」を策定し、平成 29 (2017) 年度に中間見直しを行いました。この計画に基づいて、循環型社会の形成に向けた取組を行っています。

(2) 清掃費の推移

① 清掃費財源の年度別推移 (決算額)

清掃費は小平・村山・大和衛生組合の新施設の整備 (更新) などによる負担金の増加により、増加傾向で推移しています。

【清掃費財源の年度別推移 (決算額)】

(単位：千円)

年度	一般財源	ごみ処理 手数料	し尿処理 手数料	雑排水 手数料	国・都 補助金	基金 繰入金	その他	合計
2014	1,910,158	133,430	11,267	89	392,224	181,415	0	2,628,583
2015	1,977,930	136,696	10,455	104	402,706	178,776	0	2,706,667
2016	2,021,405	138,171	12,450	15	419,110	173,654	0	2,764,805
2017	2,153,258	141,514	9,752	0	432,860	171,280	18,495	2,927,159
2018	2,779,299	171,975	7,794	0	421,778	235,141	819,300	4,435,287

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

【ごみ減量・リサイクル推進基金への積立額の推移】（単位：千円）

年度	積立額	年度末 現在額
2014	178,875	519,046
2015	151,267	491,537
2016	149,771	467,654
2017	172,437	468,811
2018	159,419	393,089

②清掃費の年度別推移（決算額）

（単位：千円）

年度	総務費		清掃事務所 管理費		塵芥処理費		し尿処理費		リサイクル 対策費		歳出額合計	
	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%
2014	110,582	4.2	1,748	0.1	1,983,198	75.4	63,146	2.4	469,909	17.9	2,628,583	100.0
2015	110,242	4.1	1,507	0.1	2,040,819	75.4	57,227	2.1	496,872	18.4	2,706,667	100.0
2016	111,717	4.0	928	0.0	2,087,771	75.5	55,506	2.0	508,883	18.4	2,764,805	100.0
2017	141,185	4.8	903	0.0	2,159,587	73.8	55,968	1.9	569,517	19.5	2,927,159	100.0
2018	153,862	3.5	0	0.0	2,396,106	54.0	54,533	1.2	1,830,786	41.3	4,435,287	100.0

※端数処理のため、歳出額合計に誤差が生じることがあります。

③令和元（2019）年度予算額

一般会計総予算額	66,346,000 千円
清掃費総予算額	3,510,140 千円
一般会計に対する割合	5.3%

注) 当初予算ベース

④部門別処理原価

ア ごみ処理原価

2015年度処理量		38,986 t			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価
人件費	55,850千円			55,850千円	1,433円
経費	786,345千円	755,512千円	503,085千円	2,044,942千円	52,453円
減価償却費	272千円			272千円	7円
計	842,467千円	755,512千円	503,085千円	2,101,064千円	53,893円
t 原価	21,609円	19,379円	12,904円	53,893円	前年度比較 3.1%増
2016年度処理量		38,844 t			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価
人件費	60,452千円			60,452千円	1,556円
経費	803,404千円	786,290千円	501,676千円	2,091,370千円	53,840円
減価償却費	272千円			272千円	7円
計	864,128千円	786,290千円	501,676千円	2,152,094千円	55,404円
t 原価	22,246円	20,242円	12,915円	55,404円	前年度比較 2.8%増
2017年度処理量		38,585 t			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価
人件費	78,683千円			78,683千円	2,039円
経費	795,332千円	863,044千円	504,880千円	2,163,256千円	56,065円
減価償却費	272千円			272千円	7円
計	874,287千円	863,044千円	504,880千円	2,242,211千円	58,111円
t 原価	22,659円	22,367円	13,085円	58,111円	前年度比較 4.9%増

イ 資源物処理原価

2015年度処理量		12,138 t		
	収集部門	中間部門	計	t 原価
人件費	32,853千円	8,213千円	41,066千円	3,383円
経費	336,380千円	161,178千円	497,558千円	40,992円
減価償却費	136千円	9,013千円	9,149千円	754円
計	369,369千円	178,404千円	547,773千円	45,129円
t 原価	30,431円	14,698円	45,129円	前年度比較 4.3%増

2016年度処理量		11,893 t		
	収集部門	中間部門	計	t 原価
人件費	31,001千円	7,750千円	38,751千円	3,258円
経費	337,845千円	171,468千円	509,313千円	42,825円
減価償却費	136千円	9,013千円	9,149千円	769円
計	368,982千円	188,231千円	557,213千円	46,852円
t 原価	31,025円	15,827円	46,852円	前年度比較 3.8%増

2017年度処理量		11,772 t		
	収集部門	中間部門	計	t 原価
人件費	39,341千円	9,835千円	49,176千円	4,177円
経費	20,481千円	489,380千円	509,861千円	43,311円
減価償却費	136千円	9,013千円	9,149千円	777円
計	59,958千円	508,228千円	568,186千円	48,266円
t 原価	5,093円	43,173円	48,266円	前年度比較 3.0%増

ウ 下水処理原価

2015年度処理量		16 kl (汚水)		
	収集部門	kl 原価	1台(1.8kl)原価	
人件費	1,643千円	102,688円	184,838円	
経費	2,863千円	178,938円	322,088円	
減価償却費	0千円	0円	0円	
計	4,506千円	281,625円	506,925円	
kl 原価	281,625円	前年度比較	10.4%減	

2016年度処理量		2 kl (汚水)		
	収集部門	kl 原価	1台(1.8kl)原価	
人件費	1,550千円	775,000円	1,395,000円	
経費	1,416千円	708,000円	1,274,400円	
減価償却費	0千円	0円	0円	
計	2,966千円	1,483,000円	2,669,400円	
kl 原価	1,483,000円	前年度比較	526.6%増	

※2017年度については、処理なし。

エ し尿処理原価

2015年度処理量		398 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	8,213千円	—	—	8,213千円	20,636円
経費	26,566千円	—	27,864千円	54,430千円	136,759円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	34,779千円	0千円	27,864千円	62,643千円	157,394円
kl 原価	87,384円	0円	70,010円	157,394円	前年度比較 2.1%減

2016年度処理量		446 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	7,750千円	—	—	7,750千円	17,377円
経費	26,786千円	—	27,348千円	54,134千円	121,377円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	34,536千円	0千円	27,348千円	61,884千円	138,753円
kl 原価	77,435円	0円	61,318円	138,753円	前年度比較 11.8%減

2017年度処理量		342 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	9,835千円	—	—	9,835千円	28,757円
経費	26,466千円	—	29,563千円	56,029千円	163,827円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	36,301千円	0千円	29,563千円	65,864千円	192,585円
kl 原価	106,143円	0円	86,442円	192,585円	前年度比較 38.8%増

⑤ごみ処理量と資源化量の推移

品目	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度			
①人口（人）	187,328		188,576		189,955		191,064		193,588			
②燃やすごみ												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	29,226 3,866	33,092	29,249 3,864	33,113	29,055 3,937	32,992	28,887 4,033	32,920	29,414 4,271	33,685
一人1日あたり排出量（g）			484.0		479.8		475.8		472.1		476.7	
対前年比（%）			-0.8%		0.1%		-0.4%		-0.2%		2.3%	
③燃やさないごみ												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	4,736 257	4,993	4,592 241	4,833	4,463 235	4,698	4,371 215	4,586	5,377 221	5,598
一人1日あたり排出量（g）			73.0		70.0		67.8		65.8		79.2	
対前年比（%）			-6.0%		-3.2%		-2.8%		-2.4%		22.1%	
④粗大ごみ												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	1,006 22	1,028	1,000 40	1,040	1,068 86	1,154	1,057 22	1,079	1,267 51	1,318
一人1日あたり排出量（g）			15.0		15.1		16.6		15.5		18.7	
対前年比（%）			-3.1%		1.2%		11.0%		-6.5%		22.2%	
⑤ごみ処理量合計（②+③+④）												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	34,968 4,145	39,113	34,841 4,145	38,986	34,586 4,258	38,844	34,315 4,270	38,585	36,058 4,543	40,601
一人1日あたり排出量（g）			572.0		564.9		560.2		553.3		574.6	
対前年比（%）			-1.5%		-0.3%		-0.4%		-0.7%		5.2%	
⑥資源（行政回収）												
ビン（t）			1,231		1,319		1,298		1,276		1,282	
カン（t）			492		475		490		480		484	
紙類（t）	収集 持込	合計	5,848 19	5,867	5,777 22	5,799	5,593 18	5,611	5,426 18	5,444	5,854 23	5,877
古布・ふとん（t）			832		879		843		894		1,138	
紙パック（t）			7		8		13		8		7	
白色トレイ（t）			2		2		2		2		2	
ペットボトル（t）			553		563		579		597		669	
プラスチック製容器包装（t）			546		593		640		679		745	
金属類（t）			85		88		90		95		113	
剪定枝（t）			53		55		45		48		86	
生ごみ一次処理物（t）			33		34		33		33		30	
食物資源（生ごみ）（t）			47		59		60		61		71	
キャップ（t）			9		10		9		9		9	
陶磁器（t）			3		6		7		5		6	
スプレー・ガス缶（t）			11		30		31		35		35	
ライター（t）			0		2		2		2		2	
小型家電（t）			1		3		3		3		6	
⑦資源（優良粗大ごみ）（t）			25		23		25		24		26	
⑧資源（有害性資源）（t）			68		70		68		72		71	
⑨資源（集団回収）（t）			2,177		2,120		2,044		2,005		2,042	
⑩資源化量合計（⑥+⑦+⑧+⑨）												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	12,023 19	12,042	12,116 22	12,138	11,875 18	11,893	11,754 18	11,772	12,678 23	12,701
一人1日あたり排出量（g）			176.1		175.9		171.5		168.8		179.7	
対前年比（%）			-1.1%		0.8%		-2.0%		-1.0%		7.9%	
⑪廃棄物総量（⑤+⑩）												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	46,991 4,164	51,155	46,957 4,167	51,124	46,461 4,276	50,737	46,069 4,288	50,357	48,736 4,566	53,302
一人1日あたり排出量（g）			748.2		740.7		731.8		722.1		754.3	
対前年比（%）			-1.4%		-0.1%		-0.8%		-0.7%		5.8%	
⑫資源化率（%）			23.5%		23.7%		23.4%		23.4%		23.8%	
⑬組合資源化量（t）			1,199		1,087		1,047		1,032		1,300	
⑭総資源化率（%）			25.9%		25.9%		25.5%		25.4%		26.3%	

※人口は、毎年度末（3月31日現在）です。

※1日排出量は、年間総排出量を年間日数で除したものです。

※廃棄物総量、資源化合計及び資源化率には、組合資源化量を含みません。

※廃棄物総量はごみ処理量と資源化合計の合計となります。

※資源化量には、協力店で回収（拠点回収）した資源（紙パック、白色トレイ）を含みます。

※資源化率＝資源化合計／ごみ総量

※総資源化率＝（資源化合計＋組合資源化量）／ごみ総量

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

※紙類とは新聞紙、雑誌・雑がみ、段ボール、シュレッダーくずのことです。

※組合資源化量は、燃やすごみ、燃やさないごみから選別等し、3市の合計から按分したものです。

※行政回収量は、拠点回収量を含みます。

ごみ処理量、資源化量は、おおよそ微減で推移しています。そのうち、新聞紙、雑誌・雑がみは顕著に減少しており、一方で段ボール、ペットボトル、プラスチック製容器包装は年々増加傾向にあります。

<参考>

【小平市一般廃棄物処理基本計画 数値目標の推移】

年度	2014	2015	2016	2017	2018	現計画目標値 2022年度
排出物原単位 (g/人日)	748.2	740.7	731.8	722.1	754.3	640.0g/人日
処理ごみ量 原単位(g/人日)	572.0	564.9	560.2	553.3	574.6	480.0g/人日
収集ごみ量 原単位(g/人日)	511.4	504.8	498.8	492.1	510.3	モニター指標 (毎年度)
持込ごみ量 (t/年)	4,145	4,145	4,258	4,269	4,542	モニター指標 (毎年度)
収集時リサイクル 率(%)	23.5	23.7	23.4	23.4	23.8	モニター指標 (毎年度)
最終処分量 (t/年)	4,777	4,624	4,573	4,542	4,736	モニター指標 (毎年度)
温室効果ガス排出 量(kg/人日)	0.26	0.32	0.28	0.28	0.27	モニター指標 (毎年度)
資源物混入率 (%)	—	—	可燃11.8 不燃16.4	—	—	モニター指標

排出物原単位は、市が処理に関与する廃棄物を市民一人、1日当たりの量に換算したもので、発生抑制がどのくらい図られているかがわかる指標となります。一人1日当たりの排出量が小さくなればなるほど、発生抑制が図られたといえます。

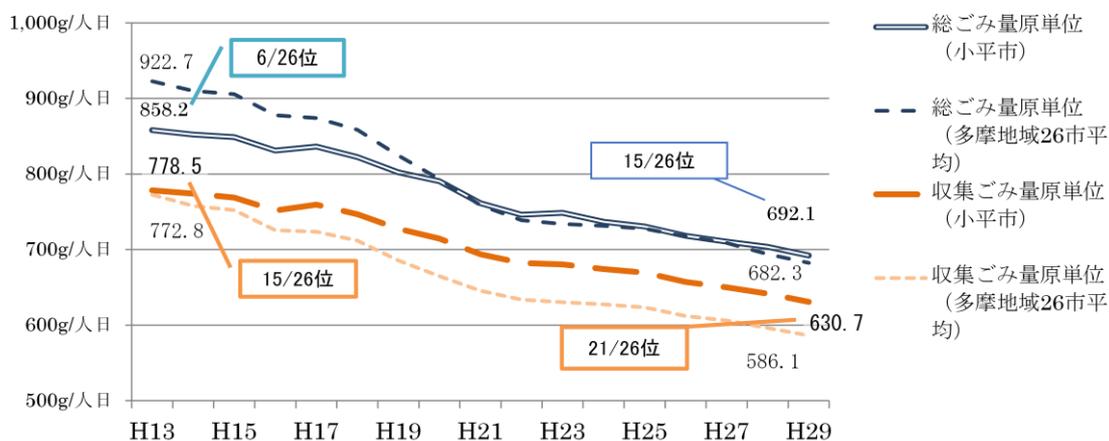
平成34(2022)年度の目標値は、一人1日当たり640.0gと設定しています。平成30年度(2018)は754.3gで前年度と比較して、32.2g、約4.5%増となっています。

また、処理ごみ量原単位は、ごみ・資源物総量のうち、ごみのみの量を市民一人1日当たりに換算したもので、ごみの発生抑制とともに、資源化品目の拡大と分別の徹底の効果を計る指標となります。

平成 34 (2022) 年度の目標値は、市民一人 1 日当たり 480.0 g と設定しています。平成 30 (2018) 年度は 574.6 g で前年度と比較して、21.3 g、約 3.8% 増となっています。

<参考>

【小平市と多摩地域 26 市平均との比較】



東京市町村自治調査会が作成している「多摩地域ごみ実態調査」の平成 29 (2017) 年度統計によりますと、小平市は、市民一人 1 日当たりの集団回収を除く、ごみ・資源物総量を示した「総ごみ量原単位」は、多摩地域 26 市中で少ない方からみて 15 番目となっています。また、総ごみ量のうち、市が収集したごみと資源物の総量を示した「収集ごみ量原単位」は、多摩地域 26 市中で少ない方からみて、21 番目となっています。

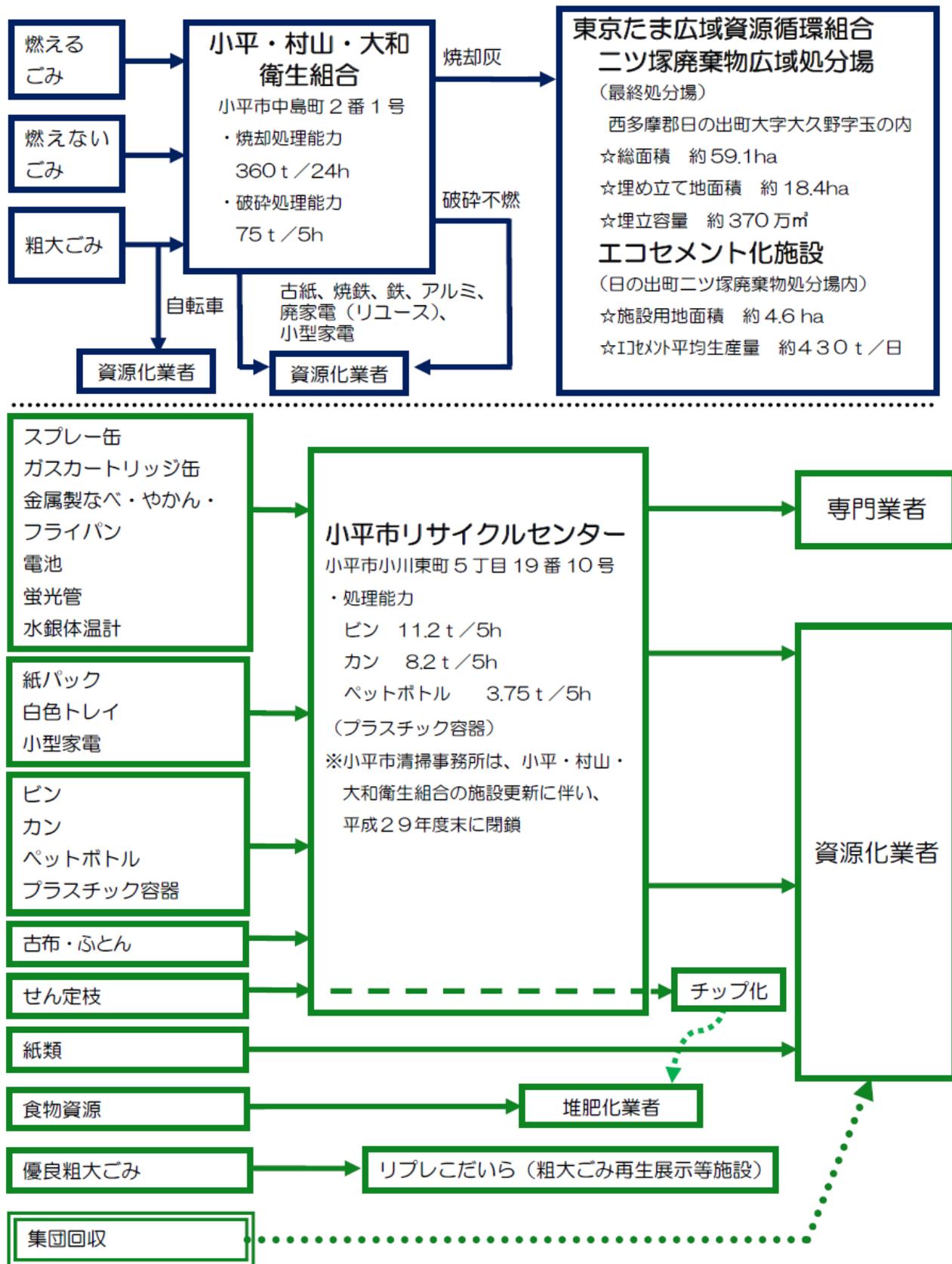


収集の様子



<参考>

【資源とごみの処理の流れ】（平成 30（2018）年）



2 ごみ処理事業の概要

(1) ごみ処理事業の概要

小平市では、昭和 40（1965）年に東大和市、武蔵村山市と共同して小平・村山・大和衛生組合を設立し、ごみの焼却処理等をしてきましたが、その間ごみ量の増大とごみ質の変化等に対応するため何度となく施設の増改築を繰り返し現在に至っています。また、より環境に配慮した清掃工場とするためにバグフィルターや白煙防止装置の設置を実施してきました。

そして、施設の老朽化・旧式化等による課題に対応するため、平成 26（2014）年度に「3 市共同資源化事業基本構想」を策定し、資源物処理施設や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の整備・更新について方針等を定めました。

その後、平成 27（2015）年度に「（仮称）3 市共同資源物処理施設整備実施計画」及び「（仮称）不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、平成 28（2016）年度より（仮称）3 市共同資源物処理施設の設計・建設工事を、平成 29（2017）年度より（仮称）不燃・粗大ごみ処理施設の設計・建設工事をそれぞれ開始し、工事を進めているところです。

ごみの最終処分地は、昭和 55（1980）年に東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合（現・東京たま広域資源循環組合）を設立し、昭和 59（1984）年から日の出町の谷戸沢最終処分場で埋め立てを開始し、平成 10（1998）年には埋立が終了しましたが、続いて同じ日の出町に二ツ塚最終処分場を建設し、現在組織市 25 市 1 町のごみを搬入しています。また、二ツ塚最終処分場の延命化及び資源の再利用化を目的として、焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント化事業」に取り組んでおり、現在、焼却灰すべてがエコセメントとして、利用されています。

市では、平成 5（1993）年度に全市での資源の分別収集を行うため収集日の変更を実施し、平成 8（1996）年度には粗大ごみを有料としました。また、平成 10（1998）年度には収集日を再度変更して排出抑制と資源化の強化に取り組み、平成 12（2000）年 10 月には事業系ごみの全面有料化を実施する等、自己処理の徹底、ごみの排出抑制、資源の有効利用の促進はもとより、中間処理施設への負担軽減や最終処分場への搬入量の減量化に努力しています。

一方、平成 16（2004）年 8 月より小平市粗大ごみ受付センターを開設し、受付日時 of 拡大等のサービス向上を図るとともに、受付業務の迅速化、効率化を図り、平成 17（2005）年 11 月から、インターネット受付を開始しました。

平成 19（2007）年 4 月には、小平市清掃事業協同組合と「災害時におけるごみ、し尿、がれきの処理活動等の応援に関する協定書」を締結し、災害時の協力体制を整えました。

平成 20（2008）年度には、リサイクルセンター、小平・村山・大和衛生組合（こもれびの足湯）などを巡る中間処理施設の見学会、小学校の環境学習では、清掃事業協同組合の協力による収集車の乗車体験、収集員からの体験談など、ごみ処理の現場をより身近に感じ取れる機会を設けました。

平成 21（2009）年度には、市と清掃事業協同組合で「新型インフルエンザに係る業務継続計画」を作成しました。そして、平成 28（2016）年度には、小平市清掃事業協同組合と高齢者等の見守りに関わる協定を締結しました。

平成 31（2019）年度には、4 月 1 日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

今後も、廃棄物の発生抑制、繰り返し使う再使用、そして資源としての再利用やエネルギーとしての利用に努め、さらに再利用ができない物については環境に配慮した適正な処理をする等、循環型社会の構築に向けて市民、事業者、行政が一体となって、種々の施策の取組の強化や新たなごみ減量策等様々な取組をしていかなければなりません。

(2) 粗大ごみ収集

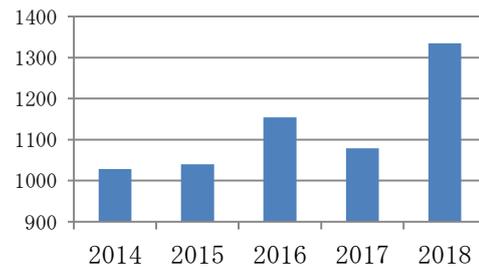
粗大ごみの受付件数は、平成 26 (2014) 年度に前年を下回るも増加傾向にあります。収集量は、近年は約 1,000~1,100 t で推移していましたが、平成 30 (2018) 年度は受付件数、収集量ともに大幅に増加しました。

月別にみた場合、年末の大掃除の 12 月や引っ越しの時期とも重なる 3 月が多い傾向にあります。

①粗大ごみ収集年度別推移

年度	粗 大 ご み			
	受付件数 (件)	対 前年比	収集量(t)	対 前年比
2014	44,094	-0.9%	1,028	-3.1%
2015	45,826	3.9%	1,040	1.2%
2016	47,210	3.0%	1,154	11.0%
2017	50,343	6.6%	1,079	-6.5%
2018	59,640	18.5%	1,335	23.7%

収集量(t) 粗大ごみ収集量の推移



②粗大ごみ等処理受付件数 (平成 30 (2018) 年度月別)

(単位: 件)

	収 集	持 込	臨 時	合 計
4月	4,760	23	0	4,783
5月	5,157	22	0	5,179
6月	4,000	21	0	4,021
7月	4,595	18	5	4,618
8月	4,633	42	0	4,675
9月	4,140	16	0	4,156
10月	5,595	30	1	5,626
11月	4,908	23	2	4,933
12月	5,652	23	2	5,677
1月	4,654	25	3	4,682
2月	4,589	25	1	4,615
3月	6,957	28	3	6,988
合 計	59,640	296	17	59,953



収集された粗大ごみ

(3) 不法投棄・動物の死体処理

不法投棄の品目は多岐にわたり、分別されていない未分別ごみ、敷物、板などがあります。

動物の死体は、飼い主がいない猫が 60%以上を占めています。

年度	不法投棄		動物の死体 (匹)						計
	家電リサイクル (個)	その他 (個)	犬		猫		その他		
			飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	
2016	6	143	13	4	29	282	8	79	415
2017	7	148	10	5	20	245	9	95	384
2018	9	190	13	3	19	185	4	101	325

※家電リサイクルとは、エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機、衣類乾燥機で市では収集していない品目になります。

(4) ごみ投入実績比較 | 平成 30 (2018) 年度

燃やすごみは、ごみ全体の 80%以上を占めています。

(単位：k g)

	収集	持込	計	割合
燃やすごみ	29,414,760	4,270,830	33,685,590	83.0%
燃やさないごみ	5,377,040	221,240	5,598,280	13.8%
粗大ごみ	1,267,160	50,380	1,317,540	3.2%
計	36,058,960	4,542,450	40,601,410	100.0%
%	88.81%	11.19%	100.0%	-

※持込には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第七条の許可業者、相対契約、臨時持込による処分が含まれます。

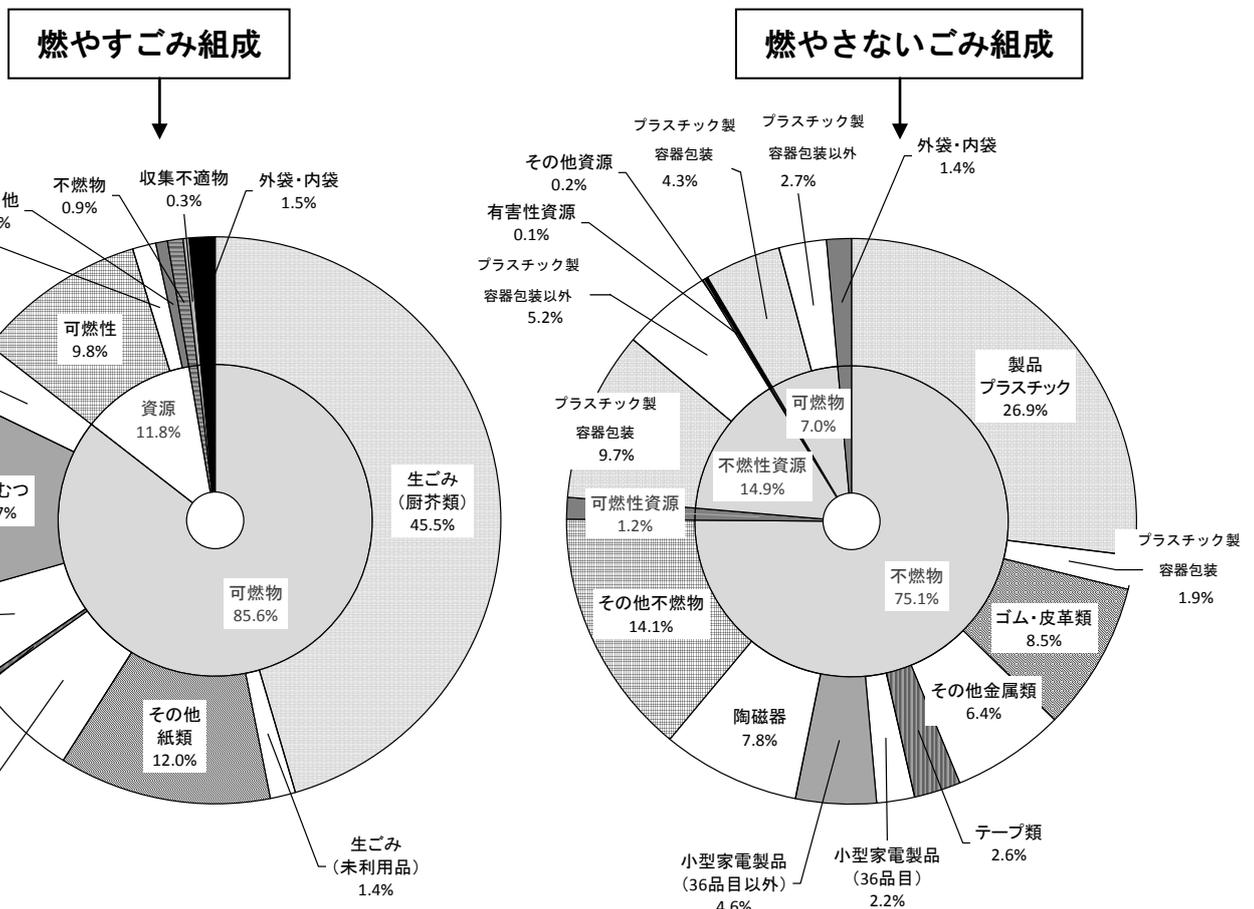
(5) 燃やすごみ・燃やさないごみ組成分析結果 | 平成 28 (2016) 年度 ※平成 29・30 年度実施なし

燃やすごみの中には 13%、燃やさないごみの中には 23.5%の分別不適合が入っており、適正な分別をしていく必要があります。

(単位：%)

	可燃性資源	不燃性資源	有害性資源	その他資源	可燃物	不燃物	収集不適合	外袋・内袋	適正分別	分別不適合
燃やすごみ	9.8	1.3	0.0	0.7	85.6	0.9	0.3	1.5	87.0	13.0
燃やさないごみ	1.2	14.9	0.1	0.2	7.0	75.1	0.0	1.4	76.5	23.5

※ごみ中の水分を含んだ状態での分析 (湿ベース)



(6) ごみ処理施設

① 中間処理施設

小平市のごみは、小平市・東大和市・武蔵村山市の3市で構成される小平・村山・大和衛生組合によって処理されています。

名称	小平・村山・大和衛生組合		
所在地	小平市中島町2番1号		
電話番号	(042)341-4345		
敷地面積	約16,700m ² (組合所有 約9,200m ² 、小平市借地 約6,500m ²)		
施設概要	不燃物積替場	昭和43(1968)年12月竣工 約690m ²	
	廃水処理施設	昭和50(1975)年3月竣工 51m ³ /24h 昭和63(1988)年3月竣工 無放流化に改良	
	粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	昭和50(1975)年10月竣工 75t/5h 平成10(1998)年3月選別装置改造	
	焼却施設 (3号炉)	昭和50(1975)年3月竣工 150t/24h 平成2(1990)年11月 大規模改造 平成15(2003)年3月バグフィルター設置	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上3階、地下2階
		煙突	溶接鋼板製 地上59.5m
	焼却施設 (4・5号炉)	昭和61(1986)年11月竣工 平成15(2003)年3月バグフィルター設置 105t/24h×2炉	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上4階、地下1階
煙突		外筒：鉄筋コンクリート造 内筒：鋼板製 地上100m	
沿革	昭和35(1960)年	当時の小平町が現在の場所をごみ処理施設に都市計画決定し、焼却場を建設	
	昭和40(1965)年 2月1日	3市による一部事務組合を設立、共同処理事業に移行。小平市施設を引継ぎ処理	
	昭和46(1971)年以降	2号炉等、人口急増、ごみ増等に対し施設拡充	



小平・村山・大和衛生組合の外観



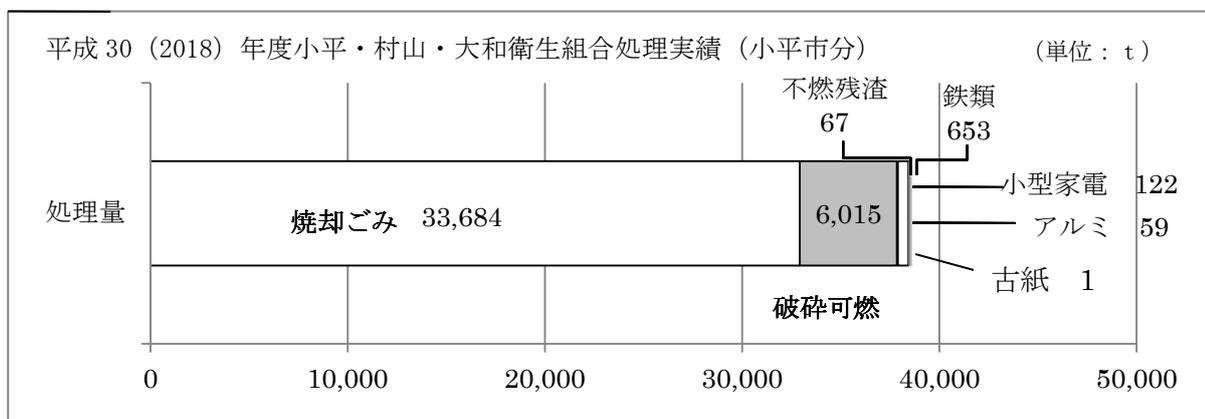
②小平・村山・大和衛生組合投入実績表

3市のごみの投入量は下表のとおりとなっています。また、投入割合は、平成30(2018)年度実績によると、小平市が56%、東大和市と武蔵村山市がそれぞれ22%となっています。

(単位：t)

年度	小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	内訳(3市分)					
	投入量	投入割合	投入量	投入割合	投入量	投入割合		燃やすごみ		燃やさないごみ		粗大ごみ	
								量	割合	量	割合	粗大	割合
2014	39,113	55%	16,557	23%	16,049	22%	71,719	63,110	88%	7,057	10%	1,552	2%
2015	38,986	55%	15,458	22%	15,816	23%	70,260	62,265	89%	6,426	9%	1,569	2%
2016	38,844	56%	15,388	22%	15,542	22%	69,774	61,736	88%	6,310	9%	1,730	2%
2017	38,585	56%	15,392	22%	15,494	22%	69,471	61,622	89%	6,207	9%	1,642	2%
2018	40,601	57%	15,173	21%	15,487	22%	71,261	62,099	87%	7,262	10%	1,900	3%

※端数処理のため、小平・村山・大和衛生組合の数字とは異なる場合があります。



焼却量 39,699 t = 燃やすごみ 33,684 t (古紙 1 t 除く) + 破碎可燃 6,015 t → 焼却残灰 4,736 t
 焼却残灰 4,736 t → エコセメント化
 埋立処分量なし 不燃残渣 67 t 資源化

③小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果 | 平成30(2018)年度

ダイオキシン類の測定結果は、全ての炉の数値が国の基準値を下回っています。

	測定項目	排出ガス(煙突)	焼却灰	ばいじん	排出水	汚泥	
		(単位)	(ng-TEQ/m ³ N)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)	(pg-TEQ/l)	(ng-TEQ/g)
		基準値	1	3	3	10	3
3号炉	測定日：H30.5.31	0.071	0.009	0.24	0.00022	0.21	
4号炉	測定日：H30.6.1	0.070	0.010	0.54	(採取日：H30.6.29)	(採取日：H30.7.11)	
5号炉	測定日：H30.6.29	0.016	0.059	1.70			

※測定結果は、コプラナーPCBを含んだ値です。

※1ng(ナノグラム)は10億分の1グラムです。

※1pg(ピコグラム)は1兆分の1グラムです。

※TEQは、毒性等量のこと、ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの毒性等量に換算した数値です。

※焼却灰、ばいじん（飛灰）、ガス冷却灰ダスト及び汚泥の基準は、薬剤処理等の判断基準です。全ての焼却施設において、薬剤処理を実施しています。

※焼却炉の集じん装置は、バグフィルターです。

④最終処分場

小平・村山・大和衛生組合で中間処理をした後の焼却残渣や破砕不燃物は、25市1町共同による東京たま広域資源循環組合でエコセメント化（エコセメントの原料として資源化）と最終処分（埋立）が行われています。

名称	東京たま広域資源循環組合		
所在地	西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地		
電話番号	(042) 597-6151		
構成団体	25 市 1 町		
処分場の規模	面積	用地面積	59.1 ha
		開発面積	33.3 ha
		埋立地面積	18.4 ha
		管理施設等面積	14.9 ha
		残存緑地面積	25.8 ha
	埋立容量	全体埋立容量	約 370 万 m ³
		廃棄物埋立容量	約 250 万 m ³
覆土容量		約 120 万 m ³	
埋立進捗率	44.7%（平成 29（2017）年度 年間進捗率 0.1%未満）		
エコセメント化施設	施設用地面積	4.6 ha	
	エコセメント平均生産量	約 430 t / 日	



エコセメント化施設の全景（平成 30 年（2018）7 月撮影）



エコセメントで造られたベンチ

⑤最終処分場搬入配分量及び実績

小平・村山・大和衛生組合で焼却、破碎処理した焼却灰は、東京たま広域資源循環組合（最終処分場）に搬入しています。直近3年間の最終処分場への投入量は、搬入配分量を上回っています。破碎不燃物は、今年度より資源化处理することで投入は無くなりました。

		2016年度	2017年度	2018年度
搬入配分量	(焼却残渣・t)	3,626	3,488	3,695
	(不燃物・m ³)	87	47	34
投入実績量	(焼却残渣・t)	4,518	4,488	4,736
	(不燃物・m ³)	61	59	0
搬入配分量に対する貢献量	(焼却残渣・t)	-892	-1,000	-1,041
	(不燃物・m ³)	26	-12	34
体積換算係数 (m ³ /t)	可燃	0.81	0.85	0.82
	不燃	1.11	1.09	0.00

※広域割当量は、毎年ローリングされるので、市計画量と相違します。

⑥平成30(2018)年度搬入実績

焼却量に対するエコセメント化した量は11.9%であり、埋立てで処理された埋立量は0となっています。

(単位：t)

エコセメント化した量	4,736	埋立量	0
焼却量に対する割合	11.9%	ごみ量に対する割合	0.0%

※焼却量(39,699 t) = 燃やすごみ(33,684 t) + 破碎可燃(6,015 t)

※ごみ量(40,601 t)

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

(7) 防鳥ネットの無料貸出し(平成30年度1月末まで)

カラス・猫などによるごみ等の散乱防止の為、市役所、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、防鳥ネットの無料貸出しを行っていました(現在は貸出しを終了しています)。

(単位：枚)

2016年度	2017年度	2018年度
955枚	931枚	702枚



(8) ごみ集積所への啓発等看板配布

市役所、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、下記の啓発等の看板を配布しています。

※西地区収集日及び東地区収集日は平成30年度をもって配布終了



西地区収集日



東地区収集日



地区以外禁止



ごみ出しルール



持ち去り禁止



不法投棄禁止 (1)



不法投棄禁止 (2)

(単位：枚)



品格

	2016年度	2017年度	2018年度
西地区収集日	279	178	68
東地区収集日	302	198	71
地区以外禁止	124	124	44
ごみ出しルール	113	134	41
持ち去り禁止	40	17	18
不法投棄禁止 (1)	109	78	47
不法投棄禁止 (2)	82	121	44
品格	79	76	45
合計	1,128	926	378

3 し尿処理事業

(1) し尿処理の概要

小平市は、昭和 40 (1965) 年度にし尿及び汚泥の処理を目的として湖南衛生組合に加入しました。その後、公共下水道の敷設の進展と共に処理量は減少しています。

一方、施設の老朽化も進んできており、処理量の減少と併せて、効率的な施設運営を図るため、平成 20 (2008) 年度に前処理希釈方式による処理能力 6 k1/日の施設に改修しました。

し尿処理量は漸減傾向にあるものの、建設現場での仮設トイレや種々の理由のため下水道接続が困難な状況等の存在により、公共下水道へ全面的に切り替わるには相当の期間を要します。

こうしたことから、湖南衛生組合では、引き続きし尿の共同処理を行うため、平成 26 (2014) 年度から平成 28 (2016) 年度にかけて、処理量に見合った新処理施設等の整備、不用施設の解体・撤去及び土地の有効利用を実施する「総合整備事業」を進め、施設を更新しました。

(2) し尿処理施設

名称	湖南衛生組合 (湖南処理場)
所在地	武蔵村山市大南 5 丁目 1 番地
電話番号	(042) 561-1551
敷地面積	29,994 m ² (約 9,070 坪)

(3) し尿等処理量の推移

① し尿処理人口 (推計) 別内訳

浄化槽、し尿の利用人数は、ともに年々減少傾向にあります。

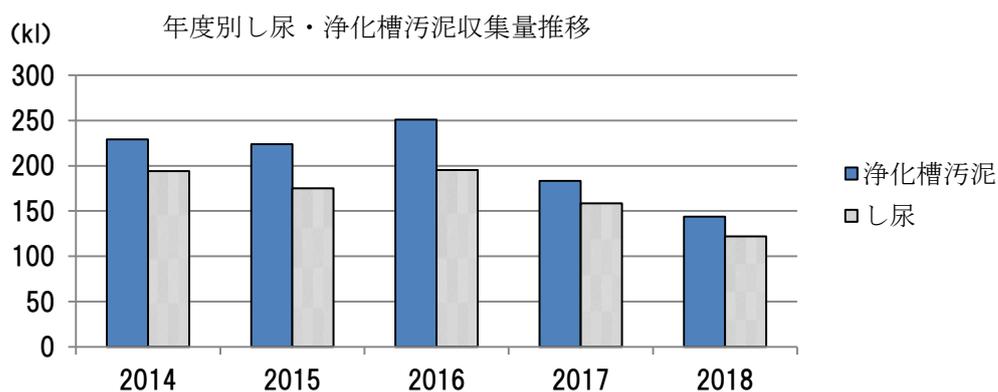
年度	2014	2015	2016	2017	2018
浄化槽	231	227	226	85	44
し尿	112	105	90	72	68

※平成 29 (2017) 年度より、5 年間以上利用がなかった人数を除いています。

② 年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移

し尿・浄化槽汚泥収集量は減少傾向にありますが、平成 28 (2016) 年度は市内大規模事業所の解体に伴い、一時的に増加しました。

年度	2014	2015	2016	2017	2018
浄化槽汚泥	229.2	223.8	251.1	183.3	122.0
し尿	194.1	175.1	195.3	158.5	143.8
総収集量	423.3	398.9	446.4	341.8	265.8
前年比 (%) (総収集量)	△ 7.7	△ 5.8	11.9	△ 23.4	△ 22.2



③年度別汚水収集量推移 | 雑排水・浄化水

(単位: kl)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
汚水	15.5	16.4	2.3	0.0	0.0
前年比 (%)	皆増	5.7	△ 86.0	△ 100.0	-

④湖南衛生組合し尿・浄化槽汚泥搬入実績表 | 年度別・組織団体別

(単位: kl)

	武蔵野市		小金井市		小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	
	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合
2014	156.2	12%	88.8	7%	423.3	33%	389.3	30%	225.1	18%	1,282.7	100%
2015	151.8	13%	70.9	6%	398.9	33%	387.8	32%	204.6	17%	1,214.0	100%
2016	156.7	12%	81.7	6%	442.0	35%	364.5	29%	220.0	17%	1,264.9	100%
2017	203.3	18%	94.2	8%	341.8	30%	314.1	27%	197.2	17%	1,150.6	100%
2018	247.8	23%	80.5	8%	265.8	25%	284.0	27%	177.8	17%	1,055.9	100%

(4) 浄化槽清掃件数の推移

(単位: 件)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
清掃件数	62 件	50 件	53 件	55 件	40 件

4 リサイクル推進事業

(1) リサイクル事業の概要

小平市では平成元(1989)年からモデル地区の分別収集を始め、毎年地区を拡大し、平成5(1993)年1月には市内全域で資源物の分別収集を実施しました。

この間、平成3(1991)年度には生ごみのリサイクルを推進するためコンポスト容器購入費補助(現・食物資源処理機器購入費補助)制度を定め、平成4(1992)年度には協力店で白色トレイ回収を開始、リサイクルフェスティバル実行委員会(後のごみ減量推進実行委員会)も発足し、平成5(1993)年度には「小平市廃棄物の減量及び処理に関する条例(以下条例)」を全面的に改正、廃棄物減量等推進審議会(市民会議の昇格)を設置し、市民と事業者と行政の三位一体となった体制が確立されました。

平成6(1994)年2月にリサイクルセンターがオープンし、廃棄物減量等推進員(愛称、クリーンメイトこだいら)もこの年に設置、平成8(1996)年にペットボトルの資源化施設の増設や、粗大ごみの再生展示販売施設(リプレこだいら)を建設し、平成9(1997)年4月からペットボトルの回収や優良な家具類の再生販売を開始しました。平成14(2002)年度には、硬質のプラスチック製容器包装の全市収集を開始したほか、緑のリサイクルとして剪定枝のチップ化事業を開始しました。平成16(2004)年度には小学校の食物資源(生ごみ)一次処理物を使った堆肥を畑で利用し、その有効性と問題点を検証するモデル事業を開始しました。平成20(2008)年度には落ち葉のリサイクル袋を作成し、希望者には貸出しを実施しました。

平成22(2010)年7月からは、生ごみの資源化を図るため、食物資源循環モデル事業を開始し、平成24(2012)年7月からは、市内全域に対象地域を拡大しました。

また同年には、市制施行50周年記念イベント「こだいら環境フェスティバル」を実施しました。平成25(2013)年度は、条例のうち資源持ち去りの罰則を強化したほか、小型家電リサイクルを、イベント回収及び日時場所を予め定めて行う拠点回収で開始しました。

平成26(2014)年度は、小型家電リサイクルにおいて国の実証事業に参加し、9月に市役所、東部市民センター、西部市民センターに回収ボックスを設置しました。11月から、これまでごみとして収集していたスプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター、アルミ製以外の金属製なべ・やかん・フライパン、ぬいぐるみ・かばん・帽子・ネクタイ・ベルト、羽毛ふとん、内側がアルミコーティングされている紙パックについて、資源とする分別変更を行いました。また、2月からは、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者(リネットジャパン株式会社)と協定を締結し、宅配便による小型家電の自宅回収サービスについて案内を開始し、資源化推進を図りました。

平成27(2015)年度は、老朽化等によりリサイクルセンターの施設更新を行うため、「小平市リサイクルセンター整備基本計画」を策定しました。また、小型家電リサイクルにおいて、都の補助金を活用し、市内図書館6カ所に回収ボックスを増設し、事業推進を図りました。

平成28(2016)年度は、未利用食品の回収を「フードドライブ」と称し、こだいら環境フェスティバルで本格実施し、食品ロス削減の啓発を行いました。

また、同年には食物資源循環モデル事業が、参加目標世帯数1,000世帯を概ね達成したことから、平成29(2017)年度より「食物資源循環事業」として本格実施しました。本事業由来の堆肥を使って市内で栽培した「資源循環野菜」はイベントで販売し、市内循環をPRしています。

また、平成29(2017)年3月には、小型家電リサイクルにおいて、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」(東京2020組織委員会が実施する入賞メダルを、小型家電から抽出さ

れるリサイクル金属を活用して制作する、国民参画型のプロジェクト)に参加するため、都市鉱山メダル連携委員会に入会しました。

平成 29 (2017) 年度は、リサイクルセンターの設計・建設工事について、技術提案型総合評価方式により事業者を選定し、設計協議を行うとともに工事に着手しました。

平成 30 (2018) 年度は、リサイクルセンターの設計・建設工事を引き続き行い、平成 31 (2019) 年 3 月にしゅん功しました。また、平成 31 (2019) 年度以降の新施設の運営に係る長期包括運営業務委託について、技術提案型総合評価方式による事業者選定を行い、運営準備を行いました。さらに、エコショップ認定制度を創設し、市内販売店によるリサイクル活動を推進、家庭ごみ有料化に備えた資源化のルート拡大を行いました。

その他、市民ボランティアの方の協力を仰ぎつつ、フェスティバルやフリーマーケットの開催、ごみ・リサイクル情報誌「ごみらいふ」の発行、講習会(食物資源堆肥化、廃油を使った石けん作り、廃傘を使ったマイバッグ)等さまざまな事業を展開するとともに、クリーンメイトと協働して不法投棄監視ウィーク事業、資源持ち去りパトロール、マイバッグキャンペーン、収集車両用マイバッグ啓発マスクの作成、イベントでの啓発活動を実施しました。

また、平成 23 (2011) 年 6 月からは、予め日時と場所を定めて行う、拠点回収による陶磁器リサイクルを開始して、ごみ減量とリサイクルの推進を図ってきました。平成 25 (2013) 年 11 月から小型家電、平成 27 (2015) 年 1 月から雑貨類、3 月から廃食油、未利用食品を回収品目に追加し、名称を「リサイクルきやらばん」と称し、実施しました。

なお、ごみ減量推進実行委員会は、平成 29 (2017) 年度の事業を終了後、平成 30 (2018) 年 4 月に解散となりました。委員会が主催していた各事業は 30 年度から市主催となっています。

(2) 資源回収売払金の推移 | 行政回収

各資源物の市況により、売払金は毎年大きく変動します。

(単位：円)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
生ビン	131,758	135,229	134,921	129,453	116,055
カレット (透明)	0	0	0	0	0
カレット (茶)	0	0	0	0	0
カレット (その他)	-696,560	-639,520	-1,580,040	-1,393,920	-1,693,620
アルミ缶	42,889,514	33,058,430	29,906,890	38,019,311	36,577,420
スチール缶	4,073,449	1,938,603	2,127,343	3,856,872	4,819,731
新聞紙	7,926,200	8,439,915	7,809,320	7,462,900	8,612,365
雑誌	26,967,590	30,956,945	31,112,480	33,999,240	28,330,860
ダンボール	16,311,620	17,307,130	17,870,570	19,668,840	19,835,295
古布	9,632,049	10,004,795	5,156,060	5,478,095	6,983,865
ふとん	461,135	301,813	106,430	110,755	140,020
紙パック	14,600	16,700	61,710	41,800	36,600
白色トレイ	0	0	0	0	0
キャップ	44,475	50,050	46,425	45,950	45,100
その他	541,110	641,580	576,525	748,780	758,170
小計	108,296,940	102,211,670	93,328,634	108,168,076	104,561,861
消費税	8,663,748	8,176,927	7,466,284	8,653,439	8,364,943
ペットボトル	30,077,413	19,555,402	15,468,014	24,894,228	26,503,602
再商品化合理化拠出金*	1,177,124	1,254,067	1,816,071	3,039,658	156,526
小型家電売却金	16,933	58,320	30,348	34,020	6,079
合計	148,232,158	131,256,386	118,109,351	144,789,421	139,593,011

※平成 21(2009)年度より再商品化合理化拠出金 (ペットボトルやプラスチック製容器包装の品質基準に基づく配分と低減額貢献度に基づく配分による) が日本容器包装リサイクル協会より支払われています。

(3) リサイクル施設

リサイクルセンターでは、主にビン・カン・ペットボトル・プラスチック製容器包装等の資源物の選別・圧縮・保管を行っています。

施設名称	小平市リサイクルセンター
住所	小平市小川東町5丁目19番10号
用途地域	準工業地域
主要用途	工場
敷地面積	11,447.00 m ²



	ビン・カン 選別等施設	ペットボトル 再資源化施設	粗大ごみ展示・販売 施設 「リプレこだいら」	古布等積替所
構造・規模	鉄骨造 2階建	軽量鉄骨造	軽量鉄骨造	重量鉄骨造
建築面積	667.97 m ²	450.48 m ²	展示場 191.29 m ² 作業場 60.27 m ²	70.00 m ²
1階床面積	624.70 m ²	450.48 m ²	展示場 191.29 m ² 作業場 60.27 m ²	70.00 m ²
2階床面積	268.65 m ²	—	—	—
延床面積	893.35 m ²	450.48 m ²	展示場 191.29 m ² 作業場 60.27 m ²	70.00 m ²
処理能力	ビン 11.2 トン/5h カン 8.2 トン/5h	ペットボトル 3.75 トン/5h	—	—
建設費	約2億5,103万円	約1億667万円	展示場 約2,666万円 作業場 約577万円	約514万円
建設年度	平成5(1993)年度	平成8(1996)年度	展示場 平成8(1996)年度 作業場 平成12(2000)年度	平成8(1996)年度
主要機器	供給コンベア 選別コンベア 磁力選別機 スチールプレス機 アルミ選別機 アルミ搬送コンベア アルミプレス機2機	破袋機 振動フィーダー 供給コンベア 穿孔機 ベアラー機	—	—

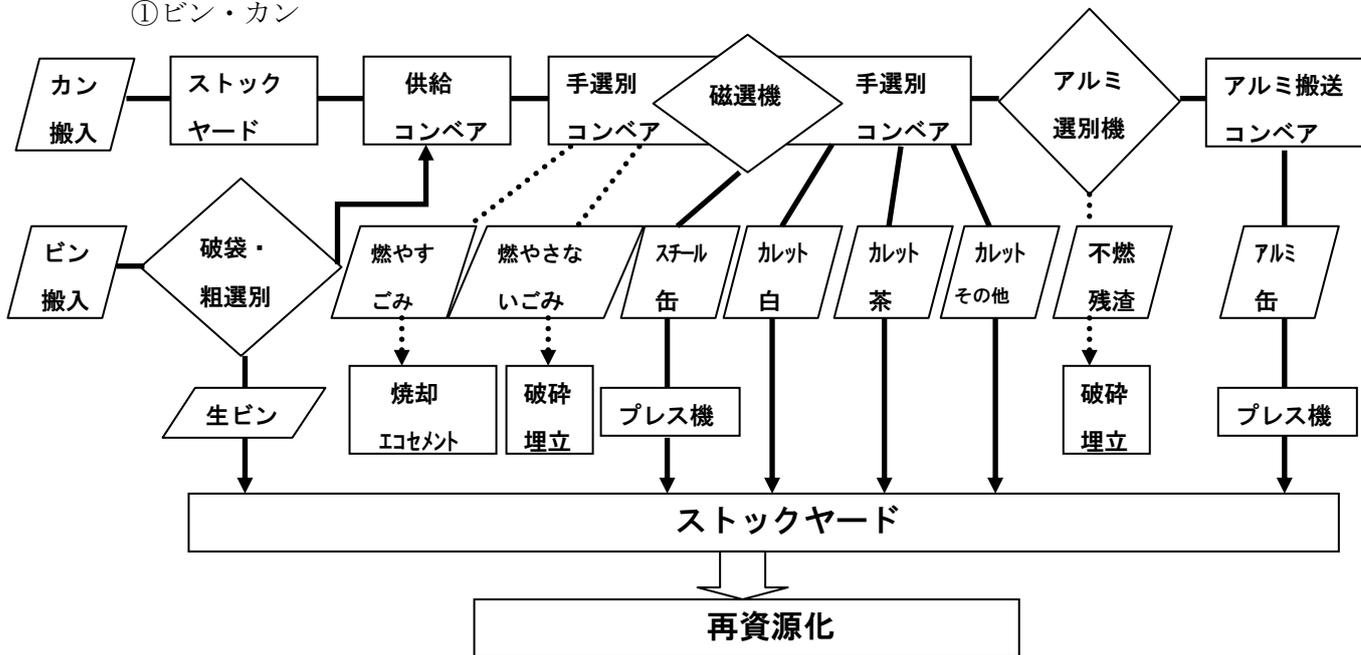
※平成16(2004)年度 遮音施設建設(ビン・カン選別等施設 182.90 m²)

※平成18(2006)年度 遮音施設建設(ペットボトル再資源化施設 100.52 m²)

【リサイクルセンター再資源化フロー】

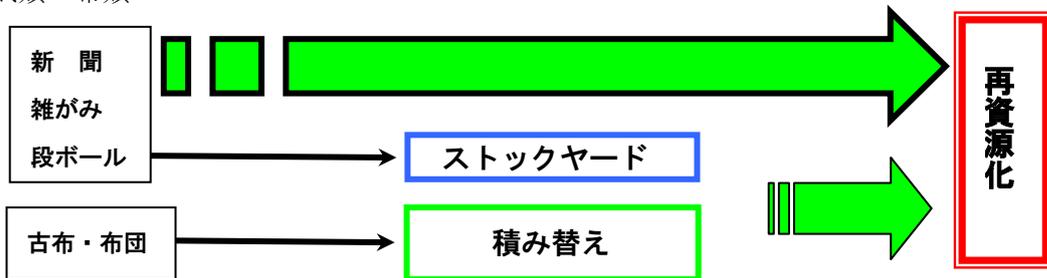
主な資源物の処理フローとしては、以下のような流れとなっており、最終的には再資源化業者に引き渡しを行います。

①ビン・カン



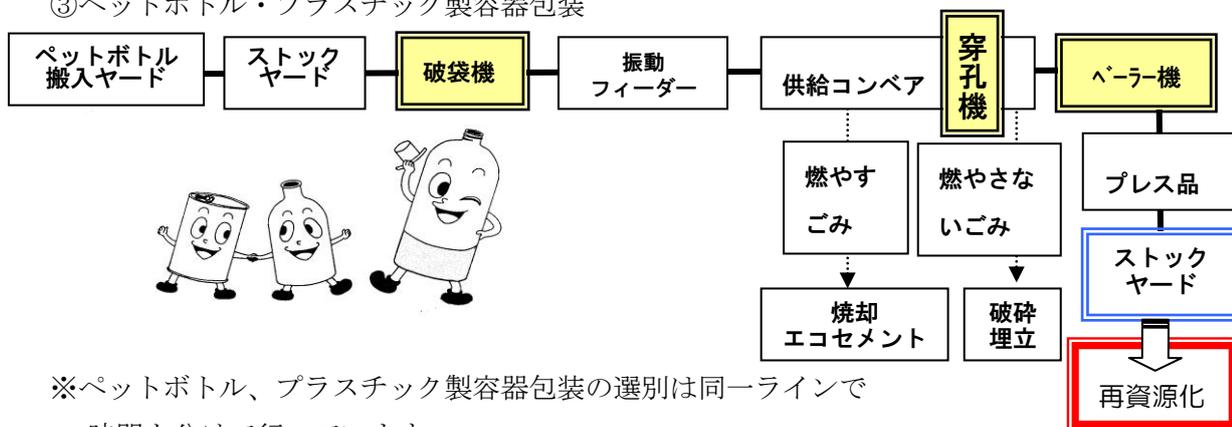
※ビン、カンの選別作業は、同一ラインで時間を分けて行っています。

②紙類・布類



注) 古紙は、直納が原則 (回収量の約0.4%がリサイクルセンターに搬入されています。)

③ペットボトル・プラスチック製容器包装



※ペットボトル、プラスチック製容器包装の選別は同一ラインで時間を分けて行っています。



リサイクルセンターの外観



プレスされた缶類

(4) 資源回収補助金交付状況 | 集団回収

自治会、子ども会、マンション管理組合など地域の団体で行政に頼らず自主的な資源回収を補助する制度です。

①補助金交付単価額 | 平成 30 (2018) 年度

品目	単価	品目	単価	品目	単価
繊維類	7 円/kg	段ボール	*9 円/kg	カレット	7 円/kg
新聞	*9 円/kg	牛乳パック	9 円/kg	金属類	7 円/kg
雑誌類	*9 円/kg	ビン類	7 円/本	アルミ缶	25 円/kg

※引取業者選定依頼書を提出した場合、新聞・雑誌類・段ボールは 6 円/kg

②年度別回収実績

年 度	2014	2015	2016	2017	2018
回収量 (kg)	2,177,294	2,120,247	2,043,874	2,004,790	2,041,516
補助金交付額 (円)	16,980,938	16,600,844	16,054,120	15,905,432	16,234,402
交付団体数 (団体)	107	114	115	116	123

③品目別回収量

(単位: kg)

年 度	2014	2015	2016	2017	2018
繊維類	78,068	83,219	78,202	78,121	92,722
紙 類	2,055,321	1,992,654	1,920,804	1,881,752	1,903,359
ビン類	0	1	0	0	0
カレット	116	0	5	0	116
金属類	13,648	13,264	12,964	12,616	12,082
アルミ缶	30,141	31,109	31,899	32,301	33,237
計	2,177,294	2,120,247	2,043,874	2,004,790	2,041,516

④平成 30（2018）年度 資源回収補助金交付団体数

【交付団体数】

上半期	119 団体
下半期	120 団体



(5) 食物資源循環（モデル）事業資源化実績

家庭から出る生ごみを分別収集し、堆肥化する事業です。

モデル事業として毎年 100 件程度の拡大を続け、平成 28（2016）年度に参加登録世帯数がおおむね 1,000 世帯となりました。平成 29（2017）年度から事業を本格実施とし、その後は同規模で継続実施しています。

	2014	2015	2016	2017	2018
参加登録世帯数	761	936	989	950	1,000
資源化量(t)	47	59	60	61	71



(6) 食物資源（生ごみ）処理機器購入費補助金交付実績

平成 26（2014）年度以降は業務用の申請はなく、年間の申請件数は 40 件程度で推移しています。

年度	基数	補助額(円)	補助金交付対象改正の経緯	
2014	40	666,800	全機種対応	購入金額の1/2
2015	47	932,800	上限	30,000円（家庭用） 300,000円（業務用）
2016	40	741,800	※処理機器は、日量処理能力が5kg未満のものを家庭	
2017	51	896,500	用、5kg以上のものを業務用としています。	
2018	113	1,956,200	※上記の区分は、2014年度以降は10kgに改めました。	

平成 30（2018）年度 機種別補助交付実績

機種	基数	補助額（円）
コンボスター系機種	7	21,900
ボカシ(EM)セット	6	9,100
電動型（乾燥型）	98	1,885,300
電動型（分解型）	0	0
家庭その他	2	39,900
業務用	0	0
合計	113	1,956,200



(7) 陶磁器食器回収実績

予め日時と場所を定めて実施する拠点回収によるものです。

回収日から資源化まで時差があるため、年度内の回収量と資源化量は一致していません。

年度	2014	2015	2016	2017	2018
回収回数(回)	6	6	6	6	7
回収量(kg)	4,970	6,530	5,370	5,240	6,759
資源化量(kg)	3,370	4,274	6,294	4,691	6,173

※ごみゼロフリーマーケット、こだいら環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん（小平村山大和衛生組合、花小金井南公民館、東部公園、マミーマート小平小川店、小川西グラウンド）で回収したものの合計です。

(8) 陶磁器食器以外資源化実績

陶磁器食器として拠点回収したもののうち、混入していたガラス等について資源化した量です。

年度	2015	2016	2017	2018
資源化量(kg)	1,310	1,020	800	1,650

(9) 小型家電回収実績

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は平成31年3月31日で終了しましたが、小型家電の回収は継続します。

回収日から資源化まで時差があるため、年度内の回収量と資源化量は一致していません。

年度	2015	2016	2017	2018
回収量(kg)	2,809	2,988	3,530	5,063
資源化量(kg)	2,700	2,810	3,150	5,630

※回収方法：市役所、東部市民センター、西部市民センターに加え、中央・喜平・上宿・津田・大沼図書館、なかまちテラスに回収ボックスを設置して回収、ごみゼロフリーマーケット、こだいら環境フェスティバル、リサイクルきやらばん（小平・村山・大和衛生組合、花小金井南公民館、東部公園、マミーマート小平小川店、小川西グラウンド）での拠点回収、及び市役所資源循環課での窓口回収

(10) リプレこだいら販売実績 | 平成30年度

ごみとして処分される粗大家具のうち、一部優良なものを修理し、展示販売しています。

品目	点数	販売金額(円)	品目	点数	販売金額(円)
和洋タンス	8	59,000	机	74	300,500
整理タンス	67	408,000	いす	287	621,180
その他タンス	16	116,500	ベッド	65	276,500
サイドボード	8	42,000	その他	481	678,600
食器棚	35	313,500	修理	109	411,600
本棚・整理棚	164	475,200	自転車	281	2,292,500
テーブル・座卓	129	471,100	自転車修理	204	501,200
			計	1,928	6,967,380

(公社) 小平市シルバー人材センター資料より

(11) 年賀ハガキ等回収実績

不要になっても、個人情報がかかっているはがきは手放しにくいものですが、はがき回収ボックスに投函していただくと、一旦市で預かり、紙類のリサイクル工場に持って行きます。

(単位：kg)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
郵便局計	755.6	529.3	468.0	356.0	420.5
市役所本庁舎	474.3	439.1	343.5	411.0	335.0
東部出張所	156.0	120.1	157.5	209.0	217.7
西部出張所	90.0	32.3	51.1	153.0	109.0
計	1475.9	1120.8	1020.1	1129.0	1082.2

*郵便局実施期間 暑中見舞いハガキ：8月～9月
年賀ハガキ：1月～2月

5 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行

(1) 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行の概要

多摩地域では、高額なごみ処理事業費の削減や最終処分場の延命化といった共通の課題に対応し、ごみゼロ社会を目指すため、東京都市長会が平成 13（2001）年 10 月に、「平成 15（2003）年を目途に全市において家庭ごみの有料化を進める。」との政策提言を行っています。こうした背景から、多摩地域においては、平成 30 年度までに既に 26 市中 24 市が家庭ごみ有料化を実施しています。

小平市においても、平成 26（2014）年 3 月策定（平成 30（2018）年 3 月改訂）の「小平市一般廃棄物処理基本計画」の中で、家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を重点施策の一つとして位置付け、平成 31（2019）年度に、全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化とともに実施いたしました。

全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化については、小平・村山・大和衛生組合において、3 市が共同してプラスチック製容器包装及びペットボトルの処理を行うため、東大和市内に平成 31（2019）年 4 月 1 日からの稼働を始めた「小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設」により、小平市の全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化が行えることとなりました。

また、小平市廃棄物減量等推進審議会からは、平成 28（2016）年 4 月に、「平成 31（2019）年度での実施に向けて、市としての体制を整えた上で、実施内容について十分な検討・準備を進めること。」との答申を、平成 30（2018）年 2 月に、「市民に対して十分な周知を行った上で、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ円滑に移行することを希望する。」との答申を受けています。

そうしたことから、小平市では、平成 29（2017）年 4 月に、『「家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行」についての基本方針』を策定し、平成 31（2019）年度を目途に家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を実施するとした方向性を定め、具体的な実施時期や有料化の対象範囲、手数料負担の仕組み等の詳細な事項については、実施計画にて定めることとしました。

実施計画については、小平市廃棄物減量等推進審議会等の意見を取り入れながら、実施内容についての検討を重ね、平成 29（2017）年 9 月に素案を策定しました。素案に対しては、市民説明会やパブリックコメントを実施し、広く市民から聴取した意見や要望を踏まえ、平成 30（2018）年 3 月に「小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画」を策定し、平成 31（2019）年 4 月 1 日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

(2) 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行関連予算

平成 30（2018）年度塵芥処理（家庭ごみ有料化及び戸別収集に伴う準備）事業 | 決算額
収入

家庭系有料ごみ処理手数料（ごみ袋）	128,861,100 円
計	128,861,100 円

支出

臨時職員賃金	2,195,820 円
市民説明会手話通訳謝礼	18,000 円
資源とごみの出し方パンフレット等音訳謝礼	60,000 円
消耗品費	2,310,895 円
市報特集号等印刷製本費	2,558,562 円
指定収集袋等販売用 JAN コード登録手数料	12,960 円

市報特集号全戸配布業務委託	1,806,656円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット等 全戸配布業務委託	4,976,262円
家庭ごみ有料化及び戸別収集周知用 ポスター作成業務委託	59,400円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット 作成業務委託	5,378,400円
資源とごみの出し方パンフレット外国語版 作成業務委託	1,246,320円
指定収集袋等製造・管理等業務委託	45,497,489円
家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行に係る コールセンター業務委託	3,334,960円
指定収集袋等受注収納等業務委託	9,936,000円
戸別収集への移行に伴うごみと資源の 排出場所調査等業務委託	11,495,520円
指定収集袋等販売業務委託	11,125,917円
計	102,013,161円

(3) 市民説明会の実施

①平成30年度第1回

ア 期間

平成30(2018)年9月15日から同年9月20日まで(全10回)

イ 開催会場、参加者数等

各公民館・地域センター等 全10回、計2,137人

日程	会場	参加者数
9月15日(土) 午前	東部市民センター	280人
9月15日(土) 午後	大沼地域センター	241人
9月16日(日) 午後	鈴木地域センター	275人
9月16日(日) 夜間	花小金井南公民館	141人
9月18日(火) 午前	上水南公民館	183人
9月18日(火) 午後	小川公民館	201人
9月19日(水) 午前	上水本町地域センター	160人
9月19日(水) 午後	小川西町公民館	316人
9月20日(木) 午後	上水新町地域センター	175人
9月20日(木) 夜間	中央公民館	165人

②平成30年度第2回

ア 期間

平成31(2019)年2月9日から同年2月20日まで(全7回)

イ 開催会場、参加者数等

小学校・ルネこだいら等 全7回、計1,341人

日程		会場	参加者数
2月9日(土)	午前	小平第三小学校	105人
2月9日(土)	午後	小平第十二小学校	125人
2月15日(金)	夜間	福祉会館	115人
2月16日(土)	午前	小平第七小学校	151人
2月16日(土)	午後	小平第五小学校	222人
2月19日(火)	夜間	ルネこだいら	211人
2月20日(水)	午後	健康センター	412人

※【参考】平成29年度実績：全12回 843人

あらかじめ期間や会場を定めて実施した上記の市民説明会のほか、出前講座等については、平成30年度に全285回開催し、計16,110人が参加しました。(P77～86に記載あり)

